

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道208号 <small>おおかわ さが</small> 大川佐賀道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	白：福岡県大川市大字大野島 至：佐賀県佐賀市嘉瀬町			延長	9.0km
事業概要	大川佐賀道路は、高規格道路「有明海沿岸道路」の一部を形成し、地域間の連携及び交流の促進を支援するとともに、並行する国道208号の交通混雑の緩和等を目的とした事業である。				
H13年度事業化	H19年度都市計画決定 (H-年度変更)	H24年度用地着手	H27年度工事着手		
全体事業費	約986億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約46%	供用済延長	0.0km
計画交通量	29,600～39,000台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 3.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 445/933億円 〔事業費：412/894億円 維持管理費：34/40億円〕	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,390/1,542億円 〔走行時間短縮便益：1,199/1,326億円 走行経費減少便益：140/156億円 交通事故減少便益：51/59億円〕	基準年	令和4年
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=1.5～1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.6～1.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.7（事業期間±20%）</p> <p>【残事業】交通量：B/C=2.9～3.4（交通量 ±10%） 事業費：B/C=2.9～3.4（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.9～3.3（事業期間±20%）</p>				
事業の効果等	<p>①広域交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海沿岸道路の整備により、大牟田市～鹿島市の所要時間が短縮。沿岸8都市間の連携・交流促進、広域拠点とのアクセス性向上による物流効率化などが期待される。 <p>②広域的な観光活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海沿岸道路の整備により、アクセス性が向上し、更なる観光客数の増加が期待される。 <p>③交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本路線の整備により、交通分担が図られ、国道208号の交通混雑の緩和が期待される。 <p>④交通安全性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本路線の整備により、交通渋滞が緩和され、交通安全性の向上が期待される。 <p>⑤救急医療活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本路線の整備により、管外救急搬送の時間短縮が図られ、救命率向上などが期待される。 <p>⑥生活環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO2, NO2, SPM削減） 				
関係する地方公共団体等の意見	<p>佐賀市をはじめとする3市2町等で構成される有明海沿岸道路建設促進佐賀県期成会（会長：佐賀市長）等により早期整備の要望を受けている。（令和4年7月）</p> <p>県の意見： （福岡県）</p> <p>一般国道208号は熊本県熊本市と佐賀県佐賀市を結ぶ、筑後地域の人流・物流を支える重要な幹線道路である。</p> <p>また、大川佐賀道路は、高規格道路である有明海沿岸道路の一部を形成し、佐賀県を含む近隣地域間の連携及び交流の促進、並行する国道208号の交通混雑の緩和等に寄与することが期待される。</p> <p>従って、「対応方針（原案）」案のとおり事業を継続すべきと考える。</p> <p>今後も適切な調査及び事業のコスト縮減に努めていただくとともに、本事業が早期に完了するように事業の推進をお願いしたい。</p>				

(佐賀県)

整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。

小さな都市が各地に点在する分散型県土を形成している当県では、地域資源を活かした産業振興等を推進するためには、広域的な幹線道路ネットワークの整備が不可欠と考えており、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路、西九州自動車道、国道498号の4つの幹線道路の整備を重点項目に掲げて、最優先に取り組んでいます。

有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市から鹿島市に至る重要な道路であり、県として佐賀唐津道路と接続するエリア（Tゾーン）を重点的に取り組んでいるところです。また、供用区間の延伸に伴い、九州佐賀国際空港の利用者数が増加するなどの効果が現れています。

大川佐賀道路の整備が促進され、有明海沿岸地域が1つにつながることで、人・モノの交流が更に促進されると期待しており、大川佐賀道路の全線について、早期に整備を進めて頂きたい。

事業費の増加はやむを得ず、今後ともコスト縮減に努めていただくとともに、早期整備に努めていただきたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は減少傾向。沿線地域の一世帯あたりの自動車保有台数は福岡県・佐賀県合計及び九州全体より高い。国道208号現道の交通量は約2万台/日で推移。事業化時と比較して社会的情勢の大きな変化は認められない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成13年度に事業化、用地進捗率約65%、事業進捗率約46%（令和4年3月末時点）

令和4年度：大野島IC～諸富IC間 延長1.7km（2/4）開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

農業用水路の関係機関協議による函渠から橋梁への変更、液状化対策が必要になったことによる地盤改良率変更および橋梁への変更、想定より厚い軟弱層が確認されたことによる地盤改良長の変更、活用可能な流用土が減ったことによる購入土への変更、建設発生土の有効活用

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を、割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。